

1990年から続く一般の方を対象とした哲学入門講座です。
様々な角度から哲学・宗教・芸術・倫理などについて学びます。

2026年度 西田幾多郎

哲 学 講 座

回	日時	内容	講師
①	5月23日 [土] 13時30分～15時30分	日常と哲学 —「平常底」について—	石川県西田幾多郎記念哲学館 館長 浅見 洋
②	6月27日 [土] 13時30分～15時30分	能登半島地震・豪雨災害からの復興と再生	北陸学院大学教授 田中 純一
③	9月5日 [土] 13時30分～15時30分	老い・看取り・死をめぐる諸問題と日本思想史研究	岡山大学教授 本村 昌文
④	9月6日 [日] 10時～12時	「迷惑をかけたくない」という思いとは何か？ 思想史からのアプローチ	
⑤	11月14日 [土] 13時30分～15時30分	帝大撰科生の西田幾多郎と仏教学との出会い	金沢大学教授 森 雅秀
⑥	12月5日 [土] 13時30分～15時30分	バークリの哲学入門① 物質は存在するのか	中央大学准教授 竹中 真也 (かほく市出身)
⑦	12月6日 [日] 10時～12時	バークリの哲学入門② 存在するとは知覚されることである	
⑧	2027年1月9日 [土] 13時30分～15時30分	近代日本の美学① 美的生活・芸道・汎律性	東京大学名誉教授 日本学士院会員 小田部 胤久
⑨	1月10日 [日] 10時～12時	近代日本の美学② 型・気・自然	
⑩	2027年3月6日 [土] 13時30分～15時30分	アナログ世界とデジタル世界のあいだを歩む —技術化された時代における人間性	金沢大学准教授 Patrick Grüneberg (パトリック・グリューネベルク)

◆今年度より、オンラインでも受講できるようになります（リアルタイム視聴のみ、アーカイブ配信なし）。
オンライン用（対面も可、年間のみ）の受講料金が追加されましたので、下記の詳細をご確認のうえお申込みください。

受講料 〔対面〕1回：500円、年間：2,000円
〔オンライン〕年間：5,000円（友の会会員は4,000円）※対面参加も可

会 場 石川県西田幾多郎記念哲学館 哲学ホール（Zoomによるハイブリッド）

申込方法 〔各回受講〕対面のみ受け付けます。事前のお申し込みは不要ですので、直接会場へお越しください。
〔年間受講〕対面・オンライン共に、お申し込みは随時受け付けております。

【対 面】住所・氏名（フリガナ）・電話番号・（お持ちの方は）メールアドレスを、電話・FAX・E-mailで下記までお申し込みのうえ、当日受付にて受講料をお支払いください。

【オンライン】申込フォーム（左の二次元コードから読み取れます）より、各講座の1週間前までに
お申し込みください。詳細はメールにてご案内いたします。

※各講座の前日までにURL等のお知らせが届かない場合は、確認のためご連絡ください。

※年間受講料の返金はいたしかねますのでご了承ください。 ※講義後の質問は対面でのみ可能です。

※他の受講生の迷惑となる行為、講座の進行を妨げるような行為があった場合などは、オンライン・対面のどちらであっても退出していただく場合がございます。

※個人情報は、当館主催事業に関する目的以外には使用しません。

お問い合わせ



2026年度 西田幾多郎哲学講座 講師、各講座のご紹介

浅見 洋 石川県西田幾多郎記念哲学館館長、石川県立看護大学名誉教授

① 5月23日【土】 13時30分～15時30分

日常と哲学―「平常底」について―

■講座内容紹介

哲学は私たちの日常生活とは縁遠いものと思われがちである。しかし、西田幾多郎はほぼ90年前のある講演会で「我々の最も平凡な日常の生活が、何であるかを最も深く掘むことによって、最も深い哲学が生れるのである」と語っている。その言葉に照らして、私たちの「日常生活」とは何であり、それを深く掘むことによって「哲学」が生れるということとはどのようなことなのかを考えてみたい。

■専門分野 日本哲学、医療倫理学、現代キリスト教思想、エンドオブライフケア学

■主な著書・論文

「西田哲学の視座でエンドオブライフケアを考える―終末期ケアのパラダイム転換を辿りながら」『越境する知としての西田哲学』(京都大学出版会) 編著 『『善の研究』初出論文、関係資料集成』(クレス出版)

田中 純一 北陸学院大学教授

② 6月27日【土】 13時30分～15時30分

能登半島地震・豪雨災害からの復興と再生

■講座内容紹介

2年半が経過した能登半島地震の被災地には、未だ生活復興の見通しをつかみ取れていない住民が数多くいます。一方で時間の経過とともに時間が経過すればよくなるという予定調和的な復興観が被災者を苦しめています。本講演では被災地の生活者の現状を参加者と理解・共有し、過疎・高齢社会における災害からの復興・再生に向けて必要な視点を考えます。

■専門分野 災害復興論

■主な著書・論文

「能登半島地震と住み続ける権利」(『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部紀要』第17号)

「能登半島地震2年目の春 被災者はいつまで忍耐・根性・我慢を続けなければならないのか」(『住民と自治』2025年4月号)

本村 昌文 岡山大学教授

③ 9月5日【土】 13時30分～15時30分

老い・看取り・死をめぐる諸問題と日本思想史研究

④ 9月6日【日】 10時～12時

「迷惑をかけたくない」という思いとは何か? : 思想史からのアプローチ

■講座内容紹介

超高齢社会を迎えた日本では、老い・看取り・死をめぐる様々な問題が噴出しています。こうした問題を扱うのは医学や看護学などの専売特許のようにみえますが、果たしてそうでしょうか? この講座では、現代日本における老い・看取り・死をめぐる現状をふまえ、日本思想史研究からのアプローチをお話しします。とくに、現代日本において老い・看取り・死について考える際に多くの人が抱く「家族や子どもに迷惑をかけたくない」という思いにフォーカスします。

■専門分野 日本思想史

■主な著書・論文

『いまを生きる江戸思想―十七世紀における仏教批判と死生観』(ペリカン社) 『老い―人文学・ケアの現場・老年学』(編集代表、ポラノ出版)

森 雅秀 金沢大学教授

⑤ 11月14日【土】 13時30分～15時30分

帝大撰科生の西田幾多郎と仏教学との出会い

■講座内容紹介

西田幾多郎が帝国大学の撰科生時代に学んだ科目の中に印度哲学があります。講師は当時の帝大教授で、「大乘非仏説」を唱えたことで有名な村上専精です。そのときの講義ノートが現存し、具体的な

内容を知ることができます。同じ講義には西田の親友の藤岡作太郎も出席し、やはりノートを残しています。ふたりの残したノートから、若き日の俊英たちが出会った印度哲学や仏教学の内容を探り、彼らの思想形成に与えた影響を紹介します。

■専門分野 仏教文化史、比較文化学

■主な著書・論文

『マンダラの新しい見方』(法蔵館)

『エロスとグロテスクの仏教美術』(春秋社)

竹中 真也 中央大学准教授

⑥ 12月5日【土】 13時30分～15時30分

パークリの哲学入門① 物質は存在するのか

⑦ 12月6日【日】 10時～12時

パークリの哲学入門② 存在するとは知覚されることである

■講座内容紹介

ジョージ・パークリ (1685-1753) は、英国の哲学者で聖職者でもありました。パークリによれば、世界は物質という実体から成るのではなく、精神との関係のなかで成立しています。この立場は一見すると風変わりと思われるますが、議論を丁寧に辿ると、決して荒唐無稽なものではありません。近年の研究では、パークリ哲学を伝統的プラトン主義との関係から読み直す試みも進んでおり、新たな展開が見られます。本講座では、パークリの生涯を辿りつつ、中心的議論を紹介します。

■専門分野 英国を中心とした17・18世紀の西洋哲学、現代の環境哲学

■主な著書・論文

『パークリ 記号と精神の哲学』(知泉書館)

「ハイパーオブジェクト時代におけるリアリティ」『リアリティの哲学』(中央大学人文科学研究研究所研究叢書、分担執筆)

小田部 胤久 東京大学名誉教授、日本学士院会員

⑧ 2027年1月9日【土】 13時30分～15時30分

近代日本の美学① 美的生活・芸道・汎律性

⑨ 2027年1月10日【日】 10時～12時

近代日本の美学② 型・気・自然

■講座内容紹介

18世紀半ばにドイツにおいて、美・芸術・感性を主題とする学問として誕生した「美学」が19世紀末に日本に導入されて以来、日本の美学者は西洋の美学を学びつつ、それと対決し、固有の美学を、あるいは美学的概念を構築してきました。このことは、「引き際の美学」(『広辞苑』)といった独自の表現が生じたことにもよく現れています。本講義では近代日本の代表的思想家の著作を取り上げ、私たちの中に生きる「美学」について改めて考察してみましょう。

■専門分野 美学芸術学

■主な著書・論文

『美学』(東京大学出版会)、『西洋美学史』(東京大学出版会)

Patrick Grüneberg 金沢大学准教授

⑩ 2027年3月6日【土】 13時30分～15時30分

アナログ世界とデジタル世界のあいだを歩む

――技術化された時代における人間性

■講座内容紹介

私たちは、テクノロジーの発展によって、さまざまな世界を歩き来しています。とりわけ今日、デジタル世界、特に人工知能(AI)は強い存在感をもっています。こうした世界間の往還は、私たちの人間存在について何を示しているのでしょうか。本講座では、超越論的観点から、デジタル世界を手がかりに、私たちが自分自身について何を学ぶのかを探ります。あわせて、そうした世界が私たちにとってどのような意味をもちうるのか、また、どのような意味をもつべきなのかについても考察します。

■専門分野 超越論哲学、意識論、主観性論、行動論

■主な著書・論文

『フィヒテ入門講義』(翻訳、筑摩書房)

「抵抗の像における行為―行為の投影における世界の思量」(『フィヒテ研究』24号)

「自我」の生成 - フィヒテの図式論と4E認知の出会い」(『フィヒテ研究』34号)